

# リハビリでも利用するトイレは 左右勝手などで個々の患者さんに対応。



5F回復期リハビリテーション病棟の車いすトイレ。スイングタイプの前方ボード、はね上げ手すり、L型手すりなどが備えられ、左右勝手のトイレが隣り合っている。

栃木県真岡市。以前の病院の場所から北へ約1.8kmの立地に、2019年3月1日、芳賀赤十字病院が新築移転しました。真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町の1市4町で構成される県東保健医療圏の中核病院として、地域における役割を果たしてきましたが、さらに地域住民や医療、保健、福祉の関係機関との連携を強化。切れ目のない「地域完結型医療」の構築を図ろうとしています。



年間4,000台を超える救急車を受け入れてきた病院が、さらに救急医療体制を拡充した。\*

## 「ワンフロア外来」などにより 高齢者の利用を分かりやすくサポート。

高齢化の著しい地域で、芳賀赤十字病院は2次救急の医療機関として、急性期医療、救急医療を担ってきました。旧病院の老朽化と手狭になったことに伴う新築移転により、さらに利用者のことを考えた工夫を施しました。まず、外来に関わる部門をすべて1Fに集約。高齢者にも分かりやすく、上下移動の少ない「ワンフロア外来」としました。患者支援センターも新設し、患者さんに医療・保健・福祉の包括的なサービスを提供する環境が整備されています。

また、救急医療を充実させ、災害拠点病院としての機能を強化。集中治療室、救急病床、ヘリポートを設置し、将来の3次救急にも対応できるように考慮されています。さらに、災害に強い病院として免震構造を採用。被災によって受傷された方々を受け入れることができる講堂なども設置しました。そして、緊急母胎搬送受け入れや新生児治療を行う地域周産期母子医療センターを併設。地域がん診療病院として、がん治療にも力を入れています。



1Fのライトコートを中心に腰を下ろすこともでき、癒される空間となっている。

### 芳賀赤十字病院

- 竣工年月/2018年12月
- 所在地/栃木県真岡市中郷271
- 施主/芳賀赤十字病院
- 設計/株式会社山下設計
- 延床面積/29,976.02m<sup>2</sup>
- 病床数/364床

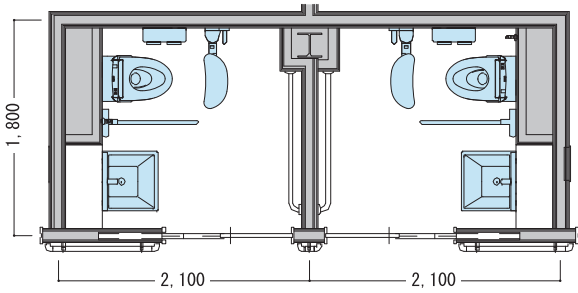


1Fの壁面は、地元の大谷石を十字ブロックに加工。赤十字を象徴するメッセージサインを取り付けた。

## ワンフロア3看護単位として 患者さんとスタッフのために短い動線を確保。

新病院では、地域のニーズに応じて地域完結型の医療を強化するため、2016年に開設した回復期リハビリテーション病棟を20床からさらに40床へ増床。患者さんの在宅復帰支援の向上を図っています。この病棟のトイレはリハビリにも使い、左右勝手に配慮し、スイングタイプの前方ボードなどを設置しています。

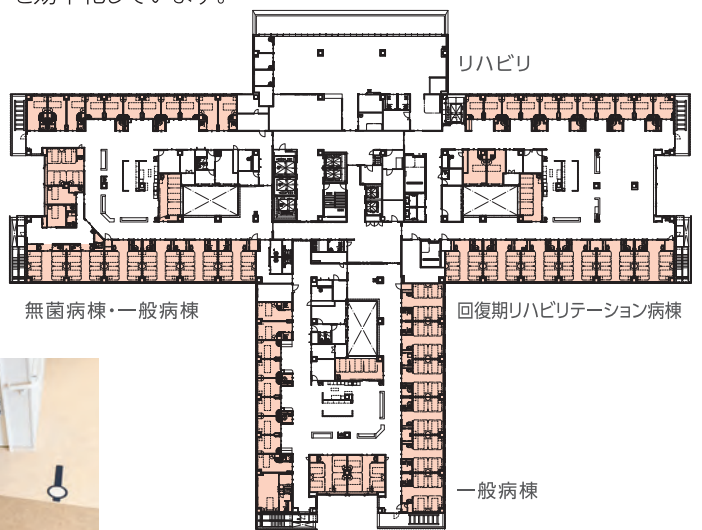
病棟のレイアウトは、ワンフロア3看護単位とし、ステーションを病棟の中央に配置することで患者さんを見守りやすく、動線が短くなるように工夫。ステーション中央をビビッドな3色に色分けし、どこに居るかが分かりやすくなっています。また、関連性の強い部門を同じフロアに配置し、患者さんやスタッフの上下移動を少なくし、医療を効率化しています。



5F回復期リハビリテーション病棟のトイレ 平面図



5F回復期リハビリテーション病棟の車いすトイレ。大便器は壁掛けタイプを採用し、清掃がしやすく清潔に保てるというメリットも大きい。



5F病棟 平面図



病棟のスタッフステーションの出入口に設けられた、水はねが少なく肘まで洗えるスタッフ用手洗器。



廊下の床には5mごとに目印を付けてリハビリを促進。



5Fの病棟案内図。3看護単位が分かりやすいように、ビビッドな色で区分されている。



5Fの多機能トイレ。オストメイトのための設備を備えた多機能トイレは各階のコア部分に配置し、誰もが使いやすいように配慮している。

### voice 管財課の方からの声

### トイレはモデルルームで検証し、多職種の間で特に議論を重ねました。



事務部 管財課  
課長補佐 施設係長  
佐藤 怜さん



事務部 管財課  
主任  
高橋 文晴さん

旧病院では建て増しを繰り返し、患者さんにもご不便をおかけしていました。そこで、免震構造にするためにも新築移転を決め、2012年度の基本構想から取り組みました。新病院はシンプルな構造ですから、患者さんにも分かりやすく、ご案内もしやすいと感じています。トイレについては、時間をしっかり確保して、多職種の間で特に議論を重ねました。モデルルームを設けて、便座の高さ、ナースコールやトイレトーパーの位置など、

一つひとつ検証しました。便器を壁掛けタイプにしたのは、衛生性と車いすでの使い勝手にこだわったからです。尿流量測定装置付きのトイレは、泌尿器科の先生からの要望があって導入しました。温水洗浄便座の管理清掃用のリモコンは、簡単に温度設定を行えるので便利です。病院が広がって光熱費も上がっているため、節電対策としてクールビズ時期には設定温度を下げるなど、様子を見ながら工夫しています。

## 患者さんがトイレを使いやすいように リハビリのスタッフと看護師が話し合う。

トイレについては、多くのスタッフも参加して議論・検証が行われました。便座の高さは、低め、標準、高めの3つのパターンのうちどれが良いかのアンケート調査を行い、特にリハビリのスタッフを中心にしながら丁寧に検討。結果として、患者さんが帰宅した際に家のトイレと同じ便座高さであるのが本人にとって良いだろうということで、標準の高さを採用しました。

病室の空間構成にも、さまざまな配慮が盛り込まれています。8角形のトイレ・シャワーユニットも、その一つ。病室の入口周りが広くなることによって、ベッドの出し入れがしやすくなっています。



4F病棟の、8角形のトイレ・シャワーユニットのある病室。トイレには、はね上げ手すりや背もたれが、シャワー周りにはL型手すりなどが備えられている。\*



### 看護師長さんからの声

前方ボードなどつかまる所が多くて助かります。



看護師長  
柳澤仁美さん

以前の病院のトイレは、和式だったところに洋式の便器を取り付けたりしましたから、狭かったりいろんな所が飛び出たりしました。新病棟のトイレはとても利用しやすく快適です。前方ボードや手すりなど、患者さんがつかまる所が多いのは、本当に助かりますね。前方ボードなどについては、リハビリのスタッフが看護師に対して、患者さんがどう使うのが良いかレクチャーを行ったりしています。また、帰宅時のことを想定し、家屋調査をしながらご本人とご家族の状況について考えるなど、みんな一丸となって在宅復帰支援に取り組んでいます。



4F病棟のダイニング。手洗器も設置された、患者さんやご家族が寛げる空間である。



病棟の汚物室。トルネード汚物流しや、ベッドバンウォッシャーなどが設置されている。



1Fの採尿用トイレの並び。どこからでも見やすいサインが備えられている。



1F外来の泌尿器科に設けられたトイレ。背もたれやL型手すり、尿流量測定装置が設置されている。



採尿用トイレの提出窓口では、尿コップを入れてボタンを押すと、検査室のスタッフに伝えられる。扉越しに目が合わないようにして、プライバシーを確保する細かな配慮である。



採尿用の女性用トイレ。白を基調とした清潔感あふれる空間になっている。



1F外来の男性用トイレ。小便器も壁掛けタイプであり、清掃しやすい。\*

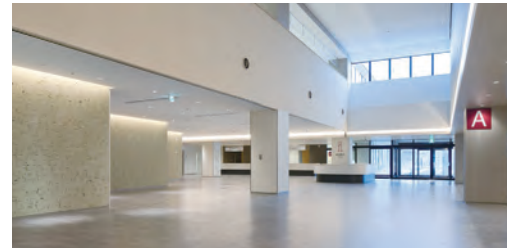
**voice** 設計担当の方からの声

現在の使いやすさと、将来対応。その両方を考えました。



株式会社山下設計  
東京本社  
第1設計部 主任  
菊池悠二さん

建物形状は上から見ると十字の形をしています。周辺の住宅地に対して圧迫感が出ないように配慮したうえで機能との整合性を突き詰めた結果、低層でこの形になりました。また、3看護単位にした方が将来的にもフレキシブルに利用できるという判断でした。各種手洗器については、一律にするのではなく用途と場所に応じて、深いもの、小さいものなどをサンプルを置いて使い勝手を確認していただき、納得して選んでいただきました。設計の立場としては、まず現在の医療環境における「使いやすさ」が大切だと考えています。そのうえで、もう一步先の「将来対応」を見据えた提案を行うことを心がけています。



1F外来のロビー。照明の光も、患者さんを分かりやすく誘導している。※



真岡木綿の「糸染めのワークショップ」には多くのスタッフも参加した。

**「つなぐ-art」で、人と、地域とつながる。**

芳賀赤十字病院では、院内アートにも力を入れています。地元の伝統文化である真岡木綿の「糸染めのワークショップ」を開催。多くの人々が参加した「つなぐ-art」を外来サインの一部に施しています。そこには、真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町という5つの地域の横のつながりと、先人からの歴史や文化を受け継いでいく縦のつながりをクロスさせるという意味合いが込められています。それは、これからも人とつながり、地域とつながりながら医療を支えたいという、病院の熱い想いの表れでもあります。



赤・ピンク・水色に染めた真岡木綿の糸は地元職人によって織られ、外来エリア全体のサインデザインの一部として組み込まれた。



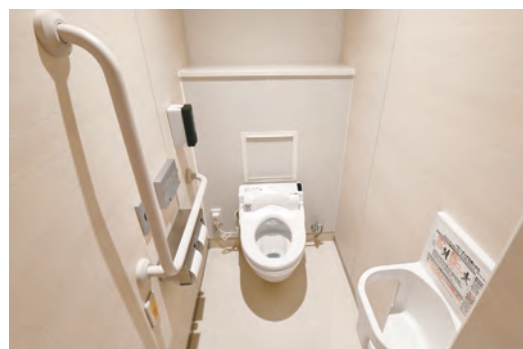
1F外来のトイレの並び。ピクトサインで、機能が一目で分かる。



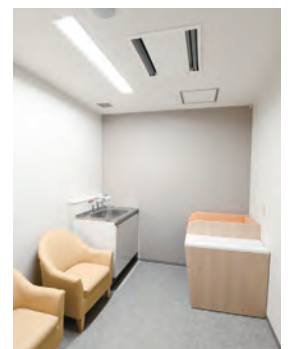
1F外来の多機能トイレには、オストメイトのための設備や、ベビーチェア、おむつ交換台などを設置。ナースコールの位置なども細かく検証された。



1F外来の女性用トイレ。化粧直しなどに便利な空間も用意されている。※



トイレブース内には、L型手すりやベビーチェアも設置されている。



1Fの授乳室には、エアコンも完備。

※の写真：カドロー撮影